

隨想

入試に思う⋮⋮ 最後の高校入試

愛知淑徳高等学校数学教諭

田中邦弘



時の流れは早く本校に赴任してから36年目となりました。中学・高校入試とこ10年余かかわってきたので、入試の周辺事情を述べてみたいと思います。

高校入試は現在中学3年生対象の平成20年度の入試をもつて幕を閉じることになりました。本校の女学校・中学・高校

の入試の歴史は明治38年の女学校になり、明治39年～昭和22年の高等女学校、昭和23年～平成20年の高校・昭和22年～試は59年間の長い年月続いたこととなります。

高校へのほぼ全入・大学進学率の高まり。

中高一貫教育・少子化・共学志向の高まりなど、入試は時代の流れを強く反映しています。

本校は時代の先を見据えながら的確な体制をとつており、創立者の理念がここにも息づいているように思います。

中学入試は、以前は私立中学に対する

認識も低く、今と比べると隔世の感があ

ります。今はゆとり教育の反動で私立中

学へのニーズがあります。我が娘への愛情

から、お母さんたちが熱心で、4・5年ごろ

から準備を始められているようです。

高校は義務教育化しており、高校入試

は「15の春は泣かせない」という使命感、

社会的な認識があり、学力と希望に合った進路先に入学させるための中学校の先

生のご苦労が偲ばれます。また、ここ10年

で男女別学から共学化への流れが急速に

特に総合大学のある男子校の共学化が女

子校に大きな影響を与えました。

卒業生から「娘を入学させたいのに入

れないと」との嘆きとか、「淑徳は高校入試

がなくなるのですか」と残念がる声を聞

きます。底堅い淑徳への入学願望と卒業

生・地域からの高い評価と信頼という財

産が築かれているのを感じています。